高等学校用

【様式】

令和8年度 学校マネジメントシート

学校名（ 三重県立いなべ総合学園高等学校 ）

1 めざす姿

(1)めざす学校の姿		総合学科の強みを活かすとともに、地域との連携・協力を更に発展させ、生徒一人ひとりの資質と能力を伸ばすことによって、自立し他者と協働できる人間を育成する。 ・ 総合学科の強み → 探究活動、実験・実習などの体験的な教育活動 ・ 地域 → いなべ市だけでなく、企業や大学等の外部機関 ・ 生徒一人ひとり → 多様な生徒、それぞれの進路希望等に応じた ※ 社会の考え方や構造の変化を踏まえ、5年(2030年度)を目途に見直しを行う。 （2025年度作成）
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	○ 自己管理ができる ○ 学習や部活動等の教育活動に主体的に取り組む ○ 多様な価値観を理解し、適切にコミュニケーションをとり、他者と関係を築く ○ 地域社会に興味・関心を持ち、意欲的に社会に貢献する ※ 上記の姿を見据え、令和8年度も昨年度同様、生徒が次の力を身に付けられるようにする 人の話を聞く力 文章を読み解く力 調べる力 情報を収集する力
	ありたい教職員の姿	○ 目指す学校像、育みたい生徒の姿を理解し、それぞれの役割に応じた教育活動に取り組む ○ 育みたい生徒の姿に倣い、率先垂範して、自己管理、主体的な取組、チームワーク、社会貢献を意識して業務を推進する ○ 授業研究や生徒指導・進路指導・教育相談等の領域に関する自己研鑽に努める ○ 仕事と生活のバランスを意識して業務を推進する

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	〈生徒〉 進路実現に向け、充実した高校生活 〈保護者〉 安全・安心な環境で、進路希望を実現できる学習環境 〈地域〉 学校の専門知識や施設の提供による地域の活性化	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	〈家庭〉 学校の現状や課題の共有 〈中学校〉 高校生活や進路状況等、情報の提供 〈地域〉 地域の活性化のための若者の活躍	〈家庭〉 本校教育方針に対する理解と協力、共に生徒を育てるための信頼と連携 〈中学校〉 効果的な指導のための生徒の情報共有 〈地域〉 本校教育活動に対する理解、共に生徒を育てるための信頼と連携

(3)前年度の学校関係者評価など		○　今後の急激な少子化、私学無償化、普通科における探究活動の充実等を見据えると、今後の学校のあり方としては、やはり、「目指す学校像」にある探究活動、体験活動等の総合学科としての魅力や特色に磨きをかけ、教育活動を充実させていくことが必要である。 ○　式典や授業中の様子を見ると、集団として悪い雰囲気は感じない。多様な生活背景や考え方を持つ生徒、保護者が増えているようであるが、挨拶や清掃、時間を守るといった基本を大切に、現状を維持・発展させていくことも大切である。 ○　具体的な取組を進めるにあたって、アウトカムが図れるような指標を検討するべきである。 ○　台風や大雪の際、適切に情報発信してもらっている。文書等を添付するなど、わかりやすい情報発信をしてほしい。悪い情報も共有した方がよい。
(4)現状と課題	教育活動	○学習指導について ・ 生活背景や学力等の状況が違う多様な生徒が在籍している。ICTの有効活用、探究活動に関する研究など、生徒の興味関心を引き出す魅力ある授業づくりに引き続き取り組み、主体的・対話的で深い学びの実現を図る必要がある。 ○進路指導について ・ 生徒の進路希望が多様で、多岐にわたる。進路指導部と年次の連携が不可欠で、キャリア教育を充実するとともに、公務員対策、課外授業など個別対応も必要である。 ○生徒指導について ・ SNS のトラブル、いじめは断続的に発生している。生徒、保護者をはじめとした社会の考え方の変化を踏まえつつ、生徒会等と連携し、生徒が主体的に規範意識や命の大切さ等を考える機会が必要である。 ○保健管理について ・ 体調不良による欠席、保健室利用が一定数発生している。自他の心身の健康に関する知識や関心を高める健康教育、また、環境教育を充実するとともに、相談できる体制づくりが必要である。 ○その他 ・ 2032年度から年次進行で実施される予定の新しい学習指導要領を見据え、指導のあり方、教育課程、系列・系統、科目登録等の見直しについて、検討を始める。
	学校運営等	○開かれた学校づくりについて ・ 新装したホームページや説明会等の機会を活用し、積極的に情報発信し、本校の魅力を多くの人に伝える取組を継続する必要がある。 ○学校経営改革について ・ 学校信頼向上委員会での学校の課題の検討、行動計画の策定に基づいた取組を実践している。引き続き、風通しの良い職場環境づくりに努め、課題や情報の共有、課題解決に向けた校内研修の実施等により、教職員一人ひとりの資質能力の向上を図る必要がある。 ・ 総勤務時間の縮減のため会議時間の縮減等、具体的な取組が必要である。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	＜カリキュラム・ポリシー＞ ◎　教科・科目を系列に分類し、それぞれの系列に対応した選択科目を編成し、講義・実験・実習等を組み合わせた調和のとれた学習活動を実践する。 ○　総合学科高校必履修科目である「産業社会と人間」を設置し、1年次からキャリア教育を推進する。 ○　キャリア教育の結果、生徒が自らの興味関心、進路希望を定め、それらを実現するための系列及びそこに開設された選択科目を主体的に選択し、学習を行えるようにする。 ○　IVYタイム（総合的な探究の時間）における探究活動を通して、生徒が生涯にわたり学び続ける態度を身に付けられるようにする。

	＜具体的な取組＞ ・ 学習意欲の向上や学習習慣の確立に向け、生徒の興味関心を引き出す魅力ある授業づくりに積極的に取り組む。 ・ 生徒が進路希望を実現できるよう、キャリア教育の充実と課外授業等の個別対応等の取組を行う。 ・ 成年年齢18歳を見据え、成人として必要な知識・技能を生徒が身に付けられるよう取り組むとともに、基本的生活習慣や規範・美化意識の確立など社会性の育成に向け、生徒会を中心に保護者や地域と連携し、生徒自身が自発的に意識を高めていく雰囲気づくりに取り組んでいく。 ・ 命を大切にし、生き抜く力の育成に向け、人権教育や危機管理教育等、意識の向上に繋がる取組を積極的に行う。
学校運営等	・ 学校の最新情報等をホームページなど様々な角度から情報発信し、本校の魅力を多くの人に伝える取組を積極的に行う。 ・ 学校が信頼されるよう、学校信頼向上委員会の活性化、行動計画の更新に基づいた取組を充実させる。また、風通しの良い職場環境づくりに努め、課題や問題の共有、その課題解決に向けた校内研修の充実などに積極的に取り組む。 ・ 総勤務時間の縮減に向け、会議時間の縮減など、具体的な取組を行う。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	○ 基本的な生活習慣が身に付いており、本校で実施するカリキュラム・学習内容・部活動等教育活動全般に対して強い興味・関心を持つ生徒で、かつ入学後、意欲的に学校生活を送る意志のある生徒 ＜次のいずれかに該当する生徒＞ 「学習について」 ○ 国語・地歴・公民・数学・理科・英語・芸術・体育等の各教科に関わって、優れた資質を持ち、得意分野の中から入学後も学習活動に意欲的である生徒 ○ 全ての教科に対して真面目に学習活動に取り組める生徒 「部活動等について」 ○ スポーツ・文化活動等で優れた実績や能力があり、入学後もその活動を継続して行う意志のある生徒 ○ 個々の部活動において、意欲的に活動する意志のある生徒 「学校生活について」 ○ 生徒会活動・学級活動で実績のある生徒 ○ ボランティア活動・人権活動に積極的に取り組める生徒 「進路について」 ○ 将来、地域社会に根差し、地域の一員として社会貢献をする意欲のある生徒 ○ 自分の夢の実現に向け、向上心を持って専門性を高めようと努力する生徒 ○ 四年制大学に進学を希望し、意欲的に学習に取り組める生徒

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」： 定期的に進捗を管理する取組　「◎」： 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考

教育課程・学習指導（教務部）	・ 生徒一人ひとりの確かな学力の伸長のために、ICTの有効活用、探究活動の充実を行います。教職員が魅力ある授業づくりに対する討議を行うことで、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の創意工夫、改善に努めます。 【活動指標(プロセス)】 ①授業公開週間等を活用し、自身の教科であるかどうかを問わず、1回以上の授業見学を行う。 ②授業見学にかかわって事前もしくは事後の討議を行う。 【成果指標(アウトカム)】 年度末に教職員向けアンケートを実施し、①他の教員の授業見学を行った教員の割合が 70%以上、②事前あるいは事後討議を行った教員の割合が 60%以上 ・「産業社会と人間」や「IVY タイム」におけるキャリア教育、また、定期的な個人面談を通して、進路希望にあった選択科目の決定を図ります。 ・ 校内ネットワークの管理に努め、統一校務システム(賢者)の運用管理に努めます。	（年度末および適宜記載）	◎
キャリア教育（進路指導部）	【活動指標(プロセス)】 ①進路ガイダンスや保護者説明会、三者懇談を通して、生徒・保護者との相互理解を図り、生徒の進路実現に向けた協力体制を構築します。 ②各年次と分掌との連携を強め、生徒に必要な情報を共有し、計画的な進路指導を行います。 ③ 「産業社会と人間」や「IVY タイム」などキャリア教育を充実させ、生徒の進路意識を高めるとともに、地域と連携した学習を通して、社会貢献できる人材育成に取り組みます。 ④ 進学に関しては、いなべ特進塾や夏季課外の充実により一般選抜に対応できる高い学力の養成を図るとともに、総合型選抜、学校推薦型選抜にも対応できるように面接指導・小論文指導などを進めます。 【成果指標(アウトカム)】 ①就職に関しては、計画的・継続的な問題演習により基礎学力の向上を図り、面接指導を充実させることで、就職内定100%を目指します。また公務員志望者には早期か		◎

	ら対策問題演習に取り組ませることで学力と意識を高め、進路実現に繋げます。		
生徒指導（生徒指導部）	・ 生徒が基本的生活習慣を確立できるように指導し、有意義で興味深く、充実した学校生活とすることができるよう支援します。 ・ 学校や社会の規則の必要性や大切さを伝え、生徒が規範意識やマナーを向上できるよう指導します。 ・ 安全教育の徹底、登下校時の交通安全指導と自転車通学者のヘルメットの着用を積極的に勧めます。 ・ いじめの早期発見・早期解決を目指すとともに、いじめを許さない雰囲気を醸成します。		◎
保健管理（保健環境部）	【活動指標プロセス】 ①環境整備 ・日常の積極的な清掃活動の推進を図ります。校内の美化や教室の整理整頓など、学習環境の整備を図ることで、生徒の学習意欲の向上につなげます。 ・集会等の機会を通じて、校内美化の重要性を全校生徒へ発信するとともに、年次と協力してゴミの分別への啓発活動を行うなど、生徒が分別や清掃を習慣化できるよう指導します。 ・主体的に大掃除や校外清掃活動をすることで、過ごしやすい環境づくりを推進します。 ②保健室 ・生徒がいつでも安心して来室でき、心身共に休まる保健室を目指します。 ・保健室来室時には、自身の健康への関心が高められるよう個別に指導するとともに、定期的に保健通信を発行し、心身の健康を守るための知識を発信します。 ・保健環境部が中心となり、各年次、生徒指導部、外部機関等と連携を図りながら、心に悩みのある生徒を支援します。 【成果指標アウトカム】 ①環境整備 環境整備に関する生徒向けアンケートを実施し、清掃活動・ゴミの分別・過ごしやすさ等の項目において、80%以		◎

	上の高評価を目指します。 ②保健室 保健室に関する生徒向けアンケートを実施し、心身が休まる・安心感・悩みの解決等の項目において、80%以上の高評価を目指します。		
1年次	・ 自主自立に向け、基礎学力の定着・自己管理(時間・時期・体調)を促します。 ・ 前期においては仲間づくりを目標とし、「部活動入ろうキャンペーン」を展開して環境への順応を図ります。そのうえで、後期には学力向上に向けて取り組み、「期日厳守」(やり切る力の獲得)に努めます。		◎
2年次	・「自主自立」を促すため、基礎学力の向上・自己管理(時間・時期・体調)に努めます。 ・「研修旅行」に向けた仲間づくりを進めるため、体育祭・文化祭に積極的に取り組みます。 ・前後期それぞれに目標を掲げ(仲間づくり・学力向上)、生徒の活動を促します。 ・3 年次に向けて、期日厳守(やり切る力)を徹底します。		◎
3年次	総合学科の強みである探究活動や体験的な学びを基盤とし、生徒一人ひとりの進路実現を支援するとともに、自己管理能力と他者と協働する力を高め、主体的に社会へ踏み出す力を育成します。 【活動指標(プロセス)】 ① 進路実現に向けた主体的な取り組みの推進 ・個々の進路希望・適性・学習状況を踏まえた個別面談の実施。 ・チューター・進路指導部・教育相談(スクールカウンセラー・SSW 等)などの他部署連携を密に行い，支援が必要な生徒を早期に把握し対応する。 ・進路に関する記録(面談記録・志望理由書・活動履歴等)の蓄積と活用。 ② 自己管理の徹底と学習活動の向上 ・ロッカー施錠点検の定期的実施と、未施錠者への即時指導。 ・課題提出期限の遵守と授業参加態度の指導徹底。 ③ 基本的生活習慣と社会性の定着 ・挨拶、言葉遣い(敬語)、服装等の継続指導。		◎

	・学年集会での具体的行動のフィードバック ・身だしなみ(服装・メイク・カラーコンタクト等)に関する個別指導の実施と記録の蓄積。 【成果指標(アウトカム)】 ① ・卒業時の進路決定率 100% (第一希望進路達成率80%以上) ・面談記録における「進路希望の明確化」達成率 90%以上。 ※進路指導記録、面談記録、進路決定状況より把握 ② ・ロッカー施錠率 100% ・特定生徒への指導後、同一紙との未施錠・再発率50%以下。 ※点検記録より把握 ③ ・授業開始・終了時の挨拶が適切に行われているクラスの割合100% ・身だしなみ指導(服装・メイク・カラーコンタクト等)を受けた生徒のうち、再指導率50%以下(1 度の指導での定着)。		
改善課題			
(年度末に記載)			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。
(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
保護者・地域住民等との連携・情報発信(総務部)	【活動指標】 ① 中学生、保護者、地域に向けて、ホームページや広報冊子などで積極的な情報発信に努めます。 ② 学校説明会(10月10日)の内容を充実させ、中学生及び保護者に向けて、本校の魅力発信に努めます。 予備日も設けて、参加希望中学生が参加しやすい方法や、中学生参加型の企画をし、参加者アンケートの結果の向上を目指します。 ③すぐーる(保護者向け)、Google Classroom(生徒向け)などを利用して、生徒及び保護者に定期的な発信および緊急連絡の発信に努めます。→ 行事予定などの定期的な発信、大雪などの急なスケジュール変更などのタイムリーな緊急連絡の発信、などに努めます。 【 成果指標】	(年度末および適宜記載)	◎

	① HP は、月1回以上の定期的な更新および行事・部活動のタイムリーな情報発信、広報冊子は、学校案内（パンフレット）の充実、を重点的に行います。		
働きやすい職場環境づくり	・ 総勤務時間の縮減を図るとともに、風通し良く相談しやすい職場環境を整備します。 【活動指標】 ① 定時退校週間に1日以上定時退校できた教職員の割合：95%以上（R7年度85．5%） ② 部活動休養日を週1日設定し、計画通り運用できた部活動の割合：100%（R7年度95．6%） ③ 放課後に開催し60分以内に終了した会議の割合：80%以上（R7年度59．4%） 【成果指標】 ① 月80時間を超える時間外労働者の延べ人数：0人（新設） ② 月45時間を超える時間外労働者の延べ人数：0人（R7年度33人） ③ 年360時間を超える時間外労働者数：0人（R7年度27人） ④ 1人当たりの月平均時間外労働：15．4時間以下（R7年度24．4時間） ・ 業務効率化を進め生徒に向き合う時間を創出します。 【活動指標】 保護者へのアンケート等の電子化率：100%（新設） ・ 教職員が健康を保持し、私生活を充実させ、仕事への意欲の向上につなげます。 【活動指標】 1人当たりの年間休暇取得日数：25日（R7年度24．9日）		◎
（事務部）	・ 良好な学習環境のための適切な施設整備、一般的な消耗品の在庫管理を行います。 【活動指標①】 ・ 各倉庫の消耗品の在庫チェックを年1回以上行う。 【成果指標①】 ・ 一般的な消耗品の在庫切れなし 【活動指標②】 ・ 校内の施設環境整備のチェックを年1回以上行う。（費用の発生する工事、修繕等を除く） 【成果指標②】 ・ 校内施設環境整備実績1回以上		

高等学校用

改善課題
（年度末に記載）

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	（年度末に記載）

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	（年度末に記載）
学校運営についての改善策	（年度末に記載）